

港湾振興便り



2025. 2
第213号

:

目 次

*:**

1 ポートエッセイ —記憶の継承、災害からの教訓—
～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

2 トピック

- 【ポート・オブ・ザ・イヤー2024】小樽港が受賞しました！
(小樽市 産業港湾部 港湾室)
- 鹿島港湾・空港整備事務所 JICA 研修を実施しました！
(関東地方整備局 鹿島港湾・空港整備事務所)
- 岡山大学生を対象とした「水島港現場見学会」を開催しました！
(中国地方整備局 宇野港湾事務所)
- 徳島小松島港赤石地区 国際物流ターミナル整備事業着工式典を開催
(四国地方整備局 小松島港湾・空港整備事務所)

:

1 ポートエッセイ —記憶の継承、災害からの教訓—

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

*:**

先月17日、阪神・淡路大震災の発生から30年という節目の年を迎えた。国内初の震度7を記録した都市型の大災害であり、これを教訓とし住宅の耐震化を始めとした多くの災害対策が講じられてきた地震でもあった。震災後30年ということから様々な報道がされていたが、「記憶の風化」の懸念もとりあげられていた。人間は忘れる生き物であると言われている。だからこそ、我々が経験した教訓を将来の世代に引き継いでいくこと、未来の防災対策に活かしていくことは災害を経験した者の大切な使命である。

新潟市は1964年に新潟地震を経験した。その発災日である6月16日を「防災の日」とし、毎年「全市一斉地震対応訓練」を実施している。情報伝達訓練として、大津波警報が発令されたという想定の下、緊急速報メールや同報無線など、実際と同じ手段で情報を配信する。携帯電話やスマートフォンの緊急速報メールが一斉に鳴り出す。地震に対する備えを今一度確認・徹底し防災のことを考える機会であり、記憶の継承という意味でも重要なことと考えている。

過去の災害を教訓として国土強靱化に向けた様々な取り組みが行われているが、地震対策で欠かせないひとつにBCP対策がある。昨年初めての南海トラフ臨時情報(巨大地震注意)が発表されてからは、企業におけるBCP対策として太平洋側港湾の代替港への関心がより一層高まっていると聞く。過去においては2011年東日本大震災の発生時、被災した東北港湾の代替港として新潟東港は機能し、過去最高の取扱量を記録している。しかしながら、本州日本海側で最大の貨物を取り扱う新潟港であっても、当時コンテナ貨物が20万TEUを超えはじめると、その対応に苦慮し、機能の脆弱性が露呈した。

太平洋側有事の際のバックアップ対応は、最近ますます必要性が高まっている。港湾のバックアップ対応を考慮した機能強化についても更なる検討が必要である。

:

2 トピック

*:

●【ポート・オブ・ザ・イヤー2024】小樽港が受賞しました！

(小樽市 産業港湾部 港湾室)

(公社)日本港湾協会では、毎年、みなとに関する話題作りに最も優れ、「みなとの元気」を高めた港湾をポート・オブ・ザ・イヤーとして選定・表彰しています。

2024年のポート・オブ・ザ・イヤーは、小樽港が受賞となり、1月22日(水)にANA インターコンチネンタルホテル東京で行われた表彰式で、日本港湾協会の進藤会長から、小樽市の迫市長に表彰状と盾が授与されました。

迫市長からは「第3号ふ頭と周辺の再開発は、官民が知恵を出し合い進めており、令和7年度が最終年度となる。引き続き官民が連携し、小樽の強みである「港」と「歴史」を生かしたまちづくりに磨きをかけながら、「みなとの元気」を高めてまいりたい。」との謝辞がありました。今回の受賞を契機に、今後、クルーズ船の寄港増など、小樽港の益々の発展が期待されるところです。



【受賞理由】

- 古くから物流の拠点として栄えてきた歴史ある港であるとともに、近年では世界中からクルーズ船が多く寄港している。歴史的な景観を有する街並みと新しい港の風景が見事に融合し、風情ある港湾空間を形成。
- 小樽運河など観光拠点や市内中心にも近い第3埠頭で大型クルーズ船岸壁の供用が令和6年4月に始まる。クルーズ船寄港の増加とともに、利便性の向上や賑わい創出による観光振興に大きく貢献。
- 大型クルーズ船岸壁供用と同時期にみなとオアシス小樽の登録。中心施設である小樽国際インフォメーションセンターは、小樽地域の情報発信、飲食や物産販売など、多くの観光客・市民で賑わっている。
- フェリー小樽新潟航路が就航50周年という記念すべき年。フェリー航路の玄関口として長年にわたり北海道と本州の物流・人流を支えてきた。
- 夏の祭典である「おたる潮祭り」などイベントが盛ん。



第3号ふ頭周辺再開発のイメージパース



初めて冬にクルーズ船が寄港

●鹿島港湾・空港整備事務所 JICA 研修を実施しました！

(関東地方整備局 鹿島港湾・空港整備事務所)

1月23日(木)、独立行政法人国際協力機構(JICA)が主催する JICA 研修「パプアニューギニア国運輸省港湾政策及び行政能力強化プロジェクトフェーズ2(第2回技術研修)」により、5名の研修生の皆さんが鹿島港を視察されました。

今年度、鹿島港にはインド国やバングラデシュ国の要人を始め、ベトナム国フエ省の要人、さらには JICA 集団研修の研修生など数多くの外国の方が視察に訪れています。

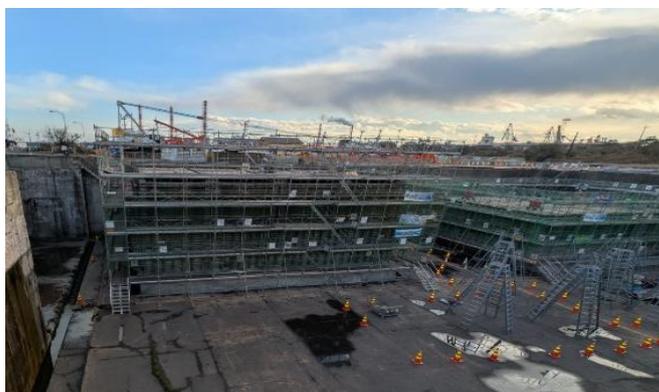
本研修では、はじめに茨城県内の港の特色や役割、港湾インフラの整備事例や産業振興と一体となった港湾開発の事例を紹介しました。その後の現場視察では、全国的にも数少ないケーソン製作ヤードにて、現在製作中の鹿島港外港地区中央防波堤のケーソン製作現場を視察されました。この防波堤のケーソン製作から据付など説明する中で、研修員の方々は興味深く工事現場の写真撮影を行い、またケーソンの製作や防波堤全体に掛かるコストや、港湾施設のメンテナンスについての質問が多数出されるなど、研修生の港湾施設の維持管理への関心が非常に高いことが伺えました。



講義の様子



ケーソンヤードにて記念撮影



ケーソン製作状況

●岡山大学生を対象とした「水島港現場見学会」を開催しました！

(中国地方整備局 宇野港湾事務所)

1月10日(金)に、岡山大学1回生89人等を対象とした「水島港現場見学会」を開催しました！当日は、「港湾物流について」の講義を行い、また、中四国地域最大の取扱貨物量を誇る水島港の荷役状況やコンテナ船・バルク船を、船内や水島港国際物流センターの屋上から見ていただき、港の役割や魅力を知っていただきました。

見学会後に実施したアンケートでは、『船に乗り、現地で実際に目にすることは普通に生活していたら経験できない事なので映像で見るより記憶に残るし興味深かった。』『水島港に立地する企業がこんなにも多くあることを初めて知った。特に、完成した自動車を玉島ハーバーアイランド4号埠頭に保管し、運搬船に乗せる話を聞き、自動車用の埠頭を作ることで効率的に移入しているのだなと感心した。』等の感想をいただきました。

港湾施設、海上輸送の現場見学を通して、港湾の重要性、海運と暮らしの関わりについて理解を深めていただきました。



座学「港湾物流について」



水島港国際コンテナターミナル



水島港国際物流センター屋上から水島港を見学



水島港の船上見学

●徳島小松島港赤石地区 国際物流ターミナル整備事業着工式典を開催

(四国地方整備局 小松島港湾・空港整備事務所)

1月11日(土)、徳島県小松島市において、「徳島小松島港赤石地区国際物流ターミナル整備事業」の着工式典を開催しました。

徳島県内の企業では、世界的な自動車のEV化や半導体需要の高まりを受け、増産を計画しており、コンテナ貨物量の大幅な増加が見込まれています。しかし、既存岸壁では、新たに国際フェリー船を着岸させるために必要な岸壁延長が不足しています。本整備による岸壁延伸を行うことで、今後増大が見込まれるコンテナ貨物需要や2024年問題に起因するモーダルシフト需要へ対応し、地域産業の国際競争力強化や国際コンテナ戦略港湾である神戸港への更なる集貨に寄与します。

式典当日は後藤田徳島県知事や稲田港湾局長、地元選出の国会議員など約180名の方々にご出席いただき、くす玉開披や地元高校生に徳島県のキャッチフレーズ「新時代へ躍り出そう」をテーマとするダンスを披露していただくなど、盛大に執り行いました。



くす玉開披の様子



地元高校生のダンスによる記念演舞

::*: 本メールマガジンに関するお問合せやご意見、また情報の送り先 :*:*:*:*:

::

日本港湾振興団体連合会事務局

〒105-0002 港区愛宕1-3-4

TEL : 03-5776-0630 FAX : 03-5776-0631

e-mail : bcf06323@nifty.com

*:

::*